

国語科 授業改善のポイント 5

H26.12.17



これまで行ってきた、「主題」読みはしていけないの？

主題とは

作品・論文・議論・研究などの中心となる思想内容。テーマ。
三省堂 新明解 国語辞典 より

平成20年改訂により、学習指導要領だけでなく、学習指導要領解説においても「主題」という言葉は消えました。



なぜ？



作品の「主題」を読み取ることを最終の目標とし、教師の教材解釈を児童生徒に教えるような、文学教材の授業の在り方を改善するためです。

学習指導要領における「主題」のとらえ方の変遷

「主題」を読み取ることが、最終的な目標と考える。



「主題をとらえる」	昭和52年	中学校学習指導要領
「主題を考える」	平成元年	中学校学習指導要領
「主題を考えたり要旨をとらえたり」	平成10年	中学校学習指導要領



「主題」という言葉はなくなる。	平成20年	中学校学習指導要領
-----------------	-------	-----------

新しい学力観（自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力の育成に重点）

「主題」を一つに絞ることは難しい。
「主題」を読み取る作業以上に、豊かな文学との関わり方はいろいろある。



児童生徒に、文学的文章を読むことの意義、楽しさを実感させることを重視



では、児童生徒に、「主題」を考えさせる授業を行ってはいけないの？

「主題」を考えることが、ねらい（身に付けさせたい力）に深く関わるのであれば、「主題」を考えることも活動として考えられます。



中学校学習指導要領 読むこと

第1学年 「オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。

第2学年 「エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。



「文章に表れているものの見方や考え方」
→ 主題が含まれると考えることもできる。



前回も説明しましたが、教師や一部の児童生徒の「主題」に近づける指導を行い、「考えが深まった」とするのは、学習指導要領の趣旨とは異なります。

「主題」について話し合う場合、まず、一人一人に自分なりの「主題」をもたせます。そして、それを一つの方向に集約するのではなく、読み手によっていろいろな「主題」のとらえ方があることに気付かせます。そのうえで、「自分のものの見方や考え方を**広くする**」ことや「知識や体験と関連付けて**自分の考えをもつ**」ことが具現化できる、単元を貫く言語活動を位置付けることが重要となります。

さらに、単元終了後、学習した作家の本や関連した本を、児童生徒が読みたくなるような、**読書活動**と関連させた単元構成を工夫してください。



音読・朗読会、おすすめの一冊、作品批評コンテスト、本のショーウインド等
→ **単元を貫く言語活動として設定する。**